

日本港湾協会特別功労者表彰に際して

E33 佐藤 昌彦氏

仙台塩釜港（仙台港区）は昨年開港50年を迎えました。私は縁があって、昭和52年に仙台塩釜港の港湾関連会社に就職しました。10代に描いた夢は外国航路の船長になって世界中の国々を廻って見たい。もちろん、外国航路の船長の給与報酬（当時：年俸1千万円以上）も魅力的でした。しかし、昭和48年・49年のオイルショック・ドルショックにより国内大手船会社への影響が大きく、就職難となりました。以後日本人船員減少の時代に突入しました。学生時代から国家試験受験のため海運局（現運輸局 塩釜合同庁舎）に来ていました。やむなく、卒業後は地元に戻り、海上と陸上を繋ぐ港湾の仕事に従事しました。当時、塩釜港には海外・国内からの貨物船も多く入港していましたが、船舶の大型化に伴ない、仙台港へのシフトが徐々に進んでいました。

しかし、仙台港はまだ整備途中で中野1号（水深12m）、2号、3号、4号（水深10m）、フェリーふ頭（水深8.5m）が供用開始していましたが、ほかの岸壁はまだ砂浜が残っている状況で、工事途中であることが誰の目から見ても明らかでした。これが私の社会人として仙台塩釜港でのスタートでした。

振り返れば、学生時代最後の年に当時の運輸省航海訓練所の練習船（帆船：日本丸・海王丸・他汽船）に乗船し、半年を掛けて世界一周をさせてもらいました。その時、太陽が昇る東へ東へどこまでも進むと本当にまた日本に戻ってくることに、地球がほんとうに丸いんだということ、夜10時でも明るい国があること実感しました。そして船乗りの中でもパナマ運河とスエズ運河の両方を超えた日本人は少ないと知り、これが100年前に生まれ、明治初期に体験していれば、明治政府の偉いお役人になれたかもしれない、もっと国の為に仕事ができただろうかと悔やんだこともありましたが、そのことが逆に自慢でもありました。

以来、仙台塩釜港に入港する外航船のさまざまな業務に従事して、パナマックス級の50,000DWT超の大型船を入港させたいというのが私の希望と目標になりました。

入社して最初に担当した船は穀物船です。陸上には最新のアンローダーがありました。仙台港で最大の公共ふ頭中野1号に設置されていました。中野1号は水深12m、全長240m、最大船舶は30,000DWTと仙台港要覧（当時仙台港湾事務所発行）に載っていました。

このアンローダーの荷揚げ能力は400t/Hで当時国内最大級、最新鋭のニューマチックアンローダーで宮城県所有でした。

第一船は関係者の期待を集め、昭和52年6月カナダ産大麦15,000tを積んだ全長165m、水深9mの大型船が入港しました。公共ふ頭にこのような設備を置くには宮城県 土木部港湾課、港湾管理者の仙台港湾事務所、さらには国交省東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所等の並々ならぬ努力と関係者の協力がなければ実現できなかったと思います。

当時は石油エネルギー備蓄政策と同様に穀物の備蓄政策があり、仙台港では食糧庁が全量買上げする大麦・小麦は輸入品対象貨物でした。この頃まで塩釜港にまだ数



会場風景



功労者表彰状



表彰授与



来賓、国交大臣他

万トン規模の保管能力があり、1stポート仙台港で半分揚げ船の足（水深）を上げて、2ndポート塩釜港（水深MAX8.5m）の形態を取っていましたが、数年後には仙台港のみになっていきました。

次に担当したのはフェリー船です。仙台港にはフェリー専用ふ頭があり、海上からの旅客にも対応していました。同様にRo-Ro船（貨物専用船）で海上輸送（シャーシと乗用車両方積み）も入港しており、東日本大震災後は自動車生産工場が県内進出したのを機に飛躍的に本船入港数の増加とバックヤード（モータープール）が急激に拡大しました。

この複合輸送の形態は発着の港で各々トラクターヘッドが待機し、短時間で高効率の積卸（港湾荷役）作業を行うものです。

現在、社会問題化している陸上の中長距離トラック輸送のドライバー不足が少しでも解消されることを願っています。ちなみに私も会員ですが、日本船舶職員協会によると内航海運の船員は数年前から増加に転じています。海上輸送の利便性が良くなるかも知れません。なお私と同じ夢を見た同級生の一人がのちに太平洋フェリー会社の社長になったことは一つ自慢話です。よくぞここまで頑張ったと褒めてあげたいです。

次に担当したのはコンテナ船です。平成の初め、内航コンテナ船社（井本商運）が仙台港寄港を計画しました。当時、仙台港にはコンテナバースはなく、関係者で協議を重ねた結果、フェリーふ頭の隣接の中野6号ふ頭で暫定的に利用する方針としました。しかし、あまりにも設備が乏しく、行政側（宮城県 土木部 港湾課、仙台港湾事務所、塩釜税関支署等々）に相談、40Fコンテナを吊上げるジブクレーン（吊上げ荷重：36t）の設置は宮城県へ要請し、吊り具（スプレッダー）は船会社負担とし、荷役機械（ストラドルキャリア）は荷役業者負担とすること、コンテナヤード（保税蔵置場取得）は通関業者が対応することなどを決め、運用開始まで2年以上を要しました。しかし、いざ開業したところ船は入港しましたが、集荷貨物が思うように集まらず1年足らずで仙台港寄港を中断しました。

その後、別の内航コンテナ船社（近海郵船）が寄港し苦勞しながら見事に復活を果たしました。すると今度は逆にコンテナヤードが不足する事態となり、このため取り扱い数量を増やすことができませんでした。これを機に高砂ふ頭に本格的にコンテナバースを建設することになりました。中野6号ふ頭には当時使用した赤いジブクレーンが、今でも鋼材・コイル・鉄板等の鉄鋼系の重量貨物の本船作業で活躍しています。この経験が生き、高砂ふ頭のコンテナ船およびコンテナヤード運営にその後多いに役立ちました。今では国内有数のコンテナ取扱い数量を誇るコンテナバースになっています。

ちなみにコンテナ船世界一周航路で仙台港に最初に入港した、船社エバーグリーン社（台湾）は世界有数の船会社です。コンテナ船のほかにも各種大型船を所有しています。昨年スエズ運河で強風のため座礁したコンテナ

船（世界一の大型船）は同社所有でした。

連日ニュースで世界中の外航船がスエズ運河の前後で滞船し、世界中の物流に影響が出たことはご存じだと思います。この日本法人「エバーグリーンジャパン」の社長は私の自慢同級生です。世界的なニュースをリアルタイムで聞けたことは良い思い出です。

さて、会社に入って30年位たったある日、同業の船舶代理店会社の担当者から豪華客船『飛鳥』の士官が会いたいという、行って見たらなんと同級生だった。自分達が見た夢をこの同級生は実現し活躍している。嬉しくもあり、寂しくもあり、、、。今となってはこれも良い思い出になりました。

さらには大手港湾事業者（辰巳商会）の専務取締役・東京支社長も同級生です。いまもお世話になっています。同じく同業のダイトウコーポレーションの常務取締役も同級生です。また仙台出身者が起こした船社の関兵海運の役員も同級生です。さらに船社インシケープシッピング元社長も同級生、同サンオーシャンの常務取締役も同級生、国交省東北運輸局首席船舶検査官も同級生、日本郵船グループ会社エンジニアリング会社副社長も同級生、少し畑違いでは朝日新聞のグループ会社朝日サービス役員も同級生、そのほかにも会社社長や団体役員をしており本当に同級生達頑張っています。わずか100人位の卒業生（同級生）でこんなにも多く社会貢献しているかと思うと励みになります。先輩や後輩を入れたらもっと多くの人がこの日本の国に貢献しています。

次にあの東日本大震災です。この年3月11日今までに経験したことのない地震と津波が仙台塩釜港を襲いました。港も会社も自宅も壊滅的な被害を受けました。

しかし4月1日には救援物資を積んだ船が仙台港に寄港しています。残った荷役機械と屋根だけの倉庫を応急措置をして稼働し、警備を頼み、何とか受入れ可能にしました。陸上からも救援物資を積んだトラックが長い行列をなして毎日のように押寄せました。さらに各市町村から引取りのトラックも来て連日作業手配と管理に追われる毎日でした。震災の翌月から仙台港が救援物資の拠点となり、被災者への救援物資を届ける仕事ができ、多くの人に喜んでいただきました。社員はもちろん私も誇りに思います。これには仙台塩釜港湾事務所、日本港湾協会、日本港運協会、日本倉庫協会、全日本トラック協会等の行政と各団体・協会の広域で絶大な協力がありました。感謝しています。のちにこの仕事があったため社会貢献と会社存続の危機を脱したと思っています。

このように仙台港が物流拠点・中継基地として果たした役割りは大きく、また利用できるよう真っ先にインフラ整備をした港湾管理者と港湾関係者に感謝申し上げます。

この頃から会社では経営職になり、港湾利用者（各荷主・輸出入商社）あるいは船会社から港湾施設に対する要望・要請を直接受ける社内窓口部所となりました。入出港安全基準はどうなっているか、ソーラスのエリアはどうなっているか、最大接岸可能船は何トンか、そ

の水深はいくらか、夜間入出港制限はどうかなどなど仙台塩釜港に関して多種多様な問合わせ、質問と要望でした。船会社（海上側）から見た仙台塩釜港、荷主・輸出入商社（陸上側）から見た仙台塩釜港、その接点にある港湾・海事関連会社から見た仙台塩釜港、どちらも使い勝手の良い港にするにはどうしたらいいか。真剣に考え行政にも相談しました。

先輩・後輩がいる仙台湾水先区水先人会（パイロット）に相談したこともあり。彼ら（パイロット）は全員船長経験者であり、国内の港湾はもちろん諸外国の港湾の入出港の経験がある船舶のプロフェッショナルです。港には色々な会社があります。例えば入出港する船をゆっくり離接岸させるため牽引するタグボート会社、船からロープを受取り取付けする会社（ラインハンドリング）、飲料水などを積込む給水会社、燃料を積込む油会社（オイルサービス）、船員の食糧を積込む卸会社（シップチャンドラー）、さらに外国人船員が上陸するために税関（横浜税 税関塩釜支署）への届け出する船舶代理店会社など、もちろん積荷の輸出入貨物も同様です。このように外航船が入出港するためには色々な会社

が関わっています。これらは海事クラスターと呼ばれ港湾機能を形成し、なくてはならない大切なものです。

最近では東日本大震災後の電力エネルギー需要の確保からバイオマス発電所の仙台港進出計画があります。今までの経験と知識が少しだけ役に立ち、荷主殿と関係官庁との調整会議に多く出席させて頂き、意見や港の状況を述べる機会を少なからず得ました。このことがあり、3件全ての発電所の燃料の輸入業務を任せて頂くことになりました。どの計画も建設地決定までに3年～4年、建設に2年～3年、計5年～7年掛かっています。これらは一企業として営業提案するだけでは荷主の理解は得られないこと、コンプライアンスを重視し、港湾計画などに基づいていること、近隣企業や地域に貢献できること、さらには20年後、30年後にも稼働していることを想定した環境対策等々を荷主と行政と一緒に考えて、特に港湾のことを説明できたことが評価されたと思っています。

最後になりますがこれまでご指導頂いた港湾関係者ならびに諸先輩方にお礼と感謝を申し上げますと共に、今後さらに50年・100年と仙台塩釜港が発展しますようお願い申し上げます。

N66 香林 大介氏

認証・表彰辰巳商会はこのほど、7月20日に開催された海事関係功労者表彰式で、同社専務取締役の香林大介氏が海事関係功労者（事業功労）として近畿運輸局長表彰を受賞したと発表した。

「海の日」に際して、国土交通省は、海運、造船、港湾運送、倉庫などの海事関係事業で、長年にわたり事業の振興に努め、発展への寄与や海事関連業務に精励した功労者を表彰している。

香林大介専務は、辰巳商会に入社以来46年間、海運事業に尽力し、全国内航輸送海運組合理事、全国内航タンカー海運組合理事・薬槽船支部長、日本内航海運組合総連合会環境安全委員などとして活動してきた。その顕著な功績が近畿運輸局長から高く評価され、この度の表彰につながった。



黄綬褒章の伝達式は11月9日、国土交通省で行われ、その後は妻とともに皇居で天皇陛下に拝謁しました。

私、館満治は昭和48年卒業（航海科63期）で現在は伊勢湾水先区で水先人をしております。（入会時は伊良湖三河湾）卒業と同時に日正汽船に入社し32年間勤務、平成19年水先人開業してほぼ17年が過ぎました。この間、嚮導船舶は2,600隻余りです。（1年間、酒田港の派遣で95隻を含む）

船種はVLCC、コンテナ船、バルカ、自動車専用船、一般貨物船、客船と多数にわたりますが、なぜかしら練習船は当たりませんでした。大は17万G/T全長360Mの

N63 館 満治氏

コンテナ船、16万G/T全長340MのVLCC、11万G/T全長288Mの客船Diamond Princessも3月始めに乗船しました。小は980G/T全長68Mの小型LPG船と多岐にわたっています。

ヒヤリとしたことも何度かあります。酒田港の冬場北西風の強い時に小型船（G/T1,972トン全長88M）の着岸操船ではとても難しかったです。

私は腰痛予防のため、業務の有る日を除いて毎日1時間以上のウォーキング、ラジオ体操を続けています。休暇の時も行っています。110人の水先人を5班に分けて月6日程度の休暇があり、5か月毎に2週間弱の休暇があります。休暇になったら、弓削（妻の郷里）に帰って、バイクツーリングをしています。



シドニー湾ハーバーブリッジ下を入港するびくとりあ丸
(昭和41年7月22日8時 撮影現地写真家 色付筆者)
左かすかに英国P&Oライン客船キャンペラが見えている
海岸周辺は公園となっていて世界有数の美港である

■なつかしの船影 日本郵船びくとりあ丸 (総トン数7519 昭和28年11月竣工)

- ・本船にはアプレンティス¹として昭和41年7月に乗船し、豪州東岸航路に就航した。堀野船長²は代理店指し回しの車でドッグレースに連れて行ってくれた。母校先輩の浦崎三航³には何くれとなく相談に乗ってもらい大変に親しくしていただいた。
- ・本船は6艙の三島型貨物船⁴で三菱長崎造船所建造、主機関2基の2軸推進。中央の高い船楼は白亜の城郭の如くで段差のあるウエル甲板とよく調和し、ホワイトリボンが船腹をゆるやかに包み整然として美しく愛らしい船だった。

「なつかしの船影」 資料編

■びくとりあ丸 VICTORIA MARU 日本郵船所有

- ・貨物船 総トン数7,519.65 載貨トン数9,993.07
主機関はディーゼル2基 推進機は2軸 8600馬力
航海速度16ノット
- ・建造所 三菱重工長崎造船所 第9次計画造船 竣工
昭和28年11月15日 売却昭和48年2月17日日商岩井へ
- ・長さ150.95m 幅19.00m 深さ10.50m

■「なつかしの船影」に登場する三島型貨物船のあらまし

- ・昭和20年代後半に欧州^{ヨーロッパ}紐育等主要航路に就航し戦後の貿易発展に貢献した。
- ・船名が「あ」で始まりAクラス船と呼ばれて優美な姿から人気があった。
- ・赤城丸、秋田丸、会津丸、浅間丸、熱海丸、あすとおりあ丸等の6隻は三菱横浜造船所建造、主機関1基の1軸推進で美しい船容の貨物船だった。
- ・阿蘇丸、有馬丸、有田丸、粟田丸、安芸丸、熱田丸、びくとりあ丸等の7隻は三菱長崎造船所建造、主機関2基の2軸推進は極めて珍しかった。

- ・あすとおりあ丸、びくとりあ丸は旧三菱海運所有であったが、昭和39年会社合併により日本郵船所有となって共にAクラス船に編入された。偶然であるがこの2船は「あ」で終わり、船名からもAクラス船と呼ばれて差し支えなかった。
- ・居住区に数名分の客室を備え、軽快で気持ちよい木甲板は寝そべてよし散歩してよしで、退屈になりがちな洋上生活をリフレッシュさせてくれた。
- ・他社同型船に旧飯野海運(合併して現在の川崎汽船)の富島丸があった。
- ・三島型貨物船の話しを我ら生徒になさった母校の小川榮治先生は、恩師であった井関貢元高等商船学校長や「海のロマンス」著者の米窪満亮⁵のこともよく話して下さった。

■主な参考図書

- ・「七つの海で一世紀」日本郵船株式会社 昭和60年10月1日発行

¹ 高校専攻科2年在籍の社船実習生 アプさんと呼ばれた ² 名は良平「浪漫派船長海のロマンス」などの著述あり 英語の名手であった

³ N53期 富山魚津出身 頼れる先輩師匠 ⁴ 船首、船橋、船尾の各楼が遠くから見て島が三つ浮いているように見えるのでこのように呼ばれた

⁵ 筆名太刀雄、第2次大成丸世界一周航海(明治45年~大正2年)を取り上げた。

編集あとがき

最後になってしまいましたがお挨拶を申し上げます。たそがれ時の茜雲、寒空に揺れる枯れ尾花など、はかなく哀愁を感じるこのごろ、皆さまには如何お過ごしでしょうか。

さて、別紙「なつかしの船影」に掲げた船の写真は、オーストラリアのシドニー湾ハーバーブリッジ下を航過する所ですが、50年以上経過した今でもすばらしさに感激します。そこで会員の皆さまにも是非ご覧いただきたくお送りします。同様の写真をお持ちの方もおられるでしょうが、色付けし、日時が判明しているものは他に

ない唯一無二のものです。会報誌に載せていただくことができれば至極光栄です。「なつかしの船影」以外の資料編は説明用に種々書きましたが省略していただいて構いません。なお、当写真はかつて同級会開催の折に印刷し、出席者数名に配布した程度の未発表のものです。

お伝えしたいことは次の2つです。1. アプさんを経験した高校時代の人にはノスタルジー(郷愁)を感じてもらおう。2. アプさん未経験の高専時代の人には歴史的意義を感じてもらおう。アプレンティスは高校時代の社船実習生のことです。

同期会

N47・E17 同期会

開催日：3月22日 場所：千里浜

(写真提供 N47 渡辺 茂)



高専7期 (N68・E35) 同期会

開催日：令和5年10月1・2日(日・月) 場所：宇奈月温泉 ホテル黒部

今回は昭和48年に富山商船高専に入学してから半世紀が経過したことを理由にして、同期会を開催しました。これまでは土曜・日曜に開催していたのですが、そろそろ定年した者も多くなり、日曜・月曜の開催でもよいのではないかと、その方が予約も取りやすいだろう、と幹事の西田千秋君は考えたようです。ところが集まったメンバーの近況を聞くと、はるばるシンガポールから参加してくれた畠山弘君を筆頭に、ほとんどが現役で働いている者ばかりでした。卒業時はオイルショックの影響が尾を引いて就職難だったことを考えると感慨深いものがあります。海運界への就職が厳しかった時代に、それでも何とか頑張って業界に残った同窓は、業界で働く同世代の人材が少ないため、今では逆に「引っ張りだこ」の状態になっており、「逆境こそ将来への糧」と現在非常勤講師として授業をしている本校の商船学科の学生に紹介しました。(わかってくれたかどうかわかりませんが)

仕事はみな現役ですが、宴会の2次会ではmidnight前には皆さん就寝、朝はとてつもなく早く起床され、やはり入学後半世紀が経過したな、と実感しました。

最後に西田幹事の発案で同窓会へのカンパを募り、ささやかですが北斗会に寄付をさせていただきました。

(文責 E35 水谷淳之介)



(参加者)

航海学科A組	影田	上出	佐々井	藤倉	堀尾
航海学科B組	磯川	川原	小杉	水門	鳥本
	長嶋	西田	春田	村田	
機関学科	腰本	竹端	畠山	水谷	本吉 葭谷内

“卒業生銘板”

17年ぶりに完成！！

昨年12月にかねてより北斗会の課題であった「卒業生銘板」の追加工事が完了しました。

懸案の「卒業生銘板」は平成17年度卒業生の銘板以来、掲示場所の移設などの学校側からの要求もあり、これまで追加工事が遅れてしまい、未掲示の卒業生の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。

以前には図書館入口に掲示していた銘板を「あいの風会館」資料室に移設してから追加工事に着手。工事業者の選定や名簿の編集などの準備から1年余りかけて、富山商船高専の卒業生1293名、富山高専射水水キャンパスの卒業生1075名の名前を掲示することが出来ました。

学校を訪れる機会がありましたら是非見学して欲しいと思います。

(文責 E30 佐々木 正)



2023年度同窓会開催プロジェクトリーダー D11 金森 達人

2023年の年末、電子制御工学科11期生は卒業後20年にして初の同窓会を行いました。同窓会のきっかけは、2023年の盆に私たち同級生数名で「教官を呼んで飲もう」となり、担任だった水谷教官と飲みに行った時のことです。話は盛り上がり「電子制御11期生で同窓会したいよな」と教官が言ったのでみんなも「そうですね、したいですね」と言った瞬間の事でした。なんと、教官が鞆から卒業アルバムのコピーを取り出したのです。そしてすかさず「たちん（私のあだな）お願いできねえか？」と言われました。私は、同窓会の企画は大変だろうし、そのうち誰かがするだろうと思っていましたが、

- ・卒業から20年そして40歳の節目の年
- ・教官が退官したのでお祝いをするべきだ
- ・わざわざコピーを持ってきた教官の熱意
- ・私たちよりおそらく短いであろう教官の余命

これらを考慮して、さらにお酒の勢いもあり「いつやるの？今でしょ」と感じました。そして一緒にいたメンバーも巻き込んで、同窓会開催プロジェクトを発足しました。盆から年末までの半年間、プロジェクトは多忙を極めました。

- ・20年前の手がかりから連絡体制を0から構築
- ・私たちが同窓会をするにふさわしい会場探し
- ・教官にふさわしい退官祝いの選定

そして、プロジェクトメンバーの努力の甲斐があり約半数の同級生が参加することとなり、県外からも多く参加していただきました。

2023年12月30日、半年かけて企画した同窓会がスタートしました。20年ぶりの再会は、一次会・二次会とも最初から最後まで大盛況となりました。同級生一同から教官へ退官祝いを渡すこともできました。教官、使ってますか？プロジェクトは大変でしたが自分も含め全員が同窓会を楽しんでいたのも、やった甲斐があったと思えました。15歳から20歳までの5年間を共有した

我々の思い出は今回の同窓会だけではとても語りつくせないのもたまたま集まりましょう！今回事情があってこれなかった人は次回ぜひ会いましょう！同窓会開催の一步を踏み出すきっかけをくれた水谷淳之介教官、ありがとうございました。一緒に尽力したプロジェクトメンバーもありがとう！

最後に、今回連絡体制も構築できたので次回のプロジェクトリーダーは出席簿順でいかがでしょうか？



〈参加者〉

水谷教官 赤石 荒井 猪原 高木(宇於崎) 大久保
村田(大坂) 上野(折田) 尾山 笠置 金森 加藤(川嶋)
北野 久々江 田尻 中野 中山 野田 廣長 二川
藪中 山浦 山田 以上23名(カッコ内は旧姓)

北斗会HPについて

ホームページ URL : <https://www.toyama-hokutokai.net/>

会報のバックナンバーも順次掲載中です。スマートフォンからもアクセスしやすくなっています！気軽にアクセスください！

住所変更等の問い合わせについてもページ内のお問い合わせフォームにて受け付けております。(受付後、改めてメールにてご連絡する場合があります。)



↑QRコードはこちら

HPへの広告バナー掲載も募集中です！



学内トピックス

■ 校内カッターレース大会

7月6日(木)、校内カッターレース大会が開催されました。途中、風が強くなり安全面を考慮の末、残念ながらレースは途中中断となりました。校内企画では、

学生会によるカキ氷の販売や謎解きゲームが盛況に行われ、大きな事故も無く、無事に大会を終えることができました。



■ 全国高等専門学校ロボットコンテスト 東海北陸地区大会

10月29日(日)、金沢工業大学にて全国高等専門学校ロボットコンテスト東海北陸地区大会が開催されました。今回のテーマは「もぎもぎ! フルーツGOラウンド」です。本校からは、本郷キャンパスから2チーム、射水キャンパスから2チームの計4チームが出場しました。大会当日は応援団も駆けつけ、観客席から選手らに熱い声援を贈りました。各チームの白熱した試合の結果、本郷Aチームは特別賞(東京エレクトロ

ン株式会社)、本郷Bチームはアイデア賞、射水Aチームは特別賞(ローム株式会社)、射水Bチームは特別賞(マブチモーター株式会社)を受賞しました。また、本郷Bチームは全国大会出場チームに選ばれました。11月26日(日)、両国国技館において全国高専ロボコンが開催されました。本校からは本郷キャンパスのチーム、プロジェクト名「GOちゃん」が出場しました。1回戦で10-40と惜しくも破れてしまいました。



同窓会事務局へご連絡ください。

同期会の開催などの同窓生近況をご連絡ください。また、お住まいの地域にて、どの同窓会支部へ連絡したら良いか、支部総会に参加したいが連絡をどこへしたら良いか、など支部や支部活動に関するご相談もお気軽にお問い合わせください。

連絡先 北斗会(富山商船同窓会)事務局

〒933-0293 富山県射水市海老江練合1の2
富山高等専門学校内

(編集担当 N15 小林 大)